

私の名はジェームス・ポンド。ポンドではないPoundでポンドだ。英国を中心に活動をしているため、通貨の単位である£ (Sterling Pound)からこの名前が付いた。普段はふつうの人と変わらない生活をしているが依頼があったときだけ活動をしている。ある日そんな私に1つの荷物が届いた。



「ジェームス、早速だが指令だ。「川の日ワークショップ」報告集を旧東ドイツのある町に住む仲間まで届けて欲しい。駅のホームで関西弁をしゃべる日本人の女性が待っているはずだ。彼女と接触し、この資料を渡してきてほしい。それでは健闘を祈る。」

困った。ドイツ語は学生時代第2外国語でやったが全く覚えていない。朝起きて6:45からNHKラジオのドイツ語講座を聴いてみたが(テキストも買った)まったくわからない。しかし指令は待ってくれない。

私はひとまずロンドン・ヒースローを經由してベルリンへ入った。夜中に着いたベルリンは折りからの猛暑で東京の夜を思い出させる蒸し暑さだ。翌朝ベルリンから電車でその町へ向かった。この列車の終着地はブダペストだ。このことから目的地がどんな町であるか容易に想像できるだろう。それにしても一つ気になることがある。その女性のことだ。今回のポンドガールはどんな女性なのだろうか。ハルベリーのような水の中からオレンジの水着でバシャー！と出てくるようなセクシーな女性だったらどうしようか。日本人なら藤原紀香か米倉涼子といったところだろうか。そんな妄想をしているうちに2時間ほどで電車はドレスデンへ到着。そこで私を待っていたのは・・・。



ドレスデンレポート 2003

- ・土谷朋子さんに聞く ドレスデンの水辺・生活 (その1)
 - ・土谷朋子さんに聞く ドレスデンの水辺・生活 (その2)
 - ・ドレスデン報告(20/08/2002)
～エルベ川、世紀の大洪水～ (土谷朋子記、PDFファイル)
-